＜考査研究２＞表現の仕方を工夫しよう（言語文化　書くこと）

１　研究の背景

「書くこと」を問う考査問題としてまず思い浮かぶのは「枕草子に倣って随筆を書きなさい」という類のものであろう。しかし，その問いは適切とは言えないのではないか。そう感じられる理由は２点ある。１点目は，何を正解にしたらよいのか，表現力を問うときに不正解があるのか，複数の採点者が同じ基準で採点できるか，採点に時間がかかるのではないかという「採点上の不安」であり，２点目は，授業で実施したパフォーマンス課題と同じことを考査で出題していいのかという「漠然とした違和感」である。

「書くこと」における「思考・判断・表現」をパフォーマンス課題だけで測るには，膨大な労力を要する。考査問題によって適切に測ることができれば，評価にかかる手間，時間を小さくできるかもしれない。採点の困難さや評価疲れを軽減でき，かつパフォーマンス課題とは違ったかたちで「思考・判断・表現」を評価することができる考査問題の作成を試みた。

２　指導目標

(1) 考査で測りたい力

読み手に効果的に伝わるよう，表現の仕方を工夫する力

自分の体験や思いが効果的に伝わるよう，文章の種類，構成，展開，描写，語句などの表現の仕方を工夫することができる。〔思考力，判断力，表現力等〕Ａ(1)イ

(2) 教材

「枕草子」(「はしたなきもの」他)

(3) 授業展開

１次　「枕草子」(「はしたなきもの」) の内容を読み取る。

２次　「枕草子」(「はしたなきもの」) の表現上の工夫を考える。

３次　「枕草子」(「はしたなきもの」) に倣って随筆を書く（言語活動)。

３　実施した考査問題の作成と採点基準

(1) 作問に対する「違和感」,「不安」の解消

作問に対する「漠然とした違和感」を解消するため，パフォーマンス課題と考査問題の違いの再確認を通して，両者を区別する考え方を見いだした。

パフォーマンス課題は，作品やプレゼンテーションなどの実技・実演に重きを置くものである。国語科においては，作品を書いたり，スピーチをしたり，小説の一場面を演劇にしたり，というようなものがイメージされる。これらは，オリジナリティも評価の対象になりえる。一方，考査問題は，ある程度限定された正解があり，オリジナルの内容でない部分を問う。つまり，実技・実演の出来栄えではなく，「何を考えたか」「どう工夫したか」という側面を見取ることが考査問題の目的となる。これは，考査問題をパフォーマンス課題と区別する考え方の一つと言えるだろう。

「採点上の不安」は，正解を一つに絞ることによって解消を試みた。「どう工夫したのか」という側面を問いつつも，正解は一つに絞ることができる問題である。ただし，知識を問う問題になってはならない。

以上を踏まえて，本研究においては，「優れた作品から学んだ表現上の工夫」＝「限定された解答」と考え，枕草子に倣って随筆を書くときの工夫を問う問題を作成した。

(2) 実施した考査問題と採点基準

実施した考査問題は＜資料＞のとおりである。

問一では，表現したいことを明確にする力を問う。正解に複数の可能性が生じないような「Ａさんの作品」を作った。採点基準は次のように設定した。なお，実際にはＡＢＣ評価に具体的な配点がある（問二も同じ）。

Ａ評価：本文の内容に沿った的確な語句を述べており，かつ10字程度の短い表現をしている。
Ｂ評価：本文の内容にある程度沿った語句を述べている（字数不問）。
Ｃ評価：本文の一部に当てはまる語句を述べている（字数不問）。

採点基準には，「おおむね」等の曖昧な表現を使わず，解答の語句が「本文（全体）に当てはまる」か「本文の一部に当てはまる」か「10字程度の表現」か「字数不問」かなど，客観的な表現を用いて設定した。

問二では，表現の仕方を工夫する力を問う。「どのような工夫をしたか」を問うだけでなく，「何のために，どのような工夫をしたか」という目的も問いたかった。そのため，記述式で工夫を述べさせた上で，その目的は「工夫の効果」として問い，こちらは選択問題にした。

採点基準は次のように設定した。

Ａ評価：工夫を三つ以上答えており，「簡潔さ」「的確さ」「断定的」の全てについて，得られる効果とともに述べている。
Ｂ評価：工夫を三つ以上答えており，「簡潔さ」「的確さ」「断定的」のうち２点について，得られる効果とともに述べている。
Ｃ評価：工夫を三つ以上答えている。

問一と同様に，「三つ以上答えており」「『簡潔さ』『的確さ』『断定的』のうち２点」あるいは「……全て」という客観的な基準を設けた。採点基準中の「『簡潔さ』『的確さ』『断定的』」とは，『枕草子』の表現上の工夫の特徴を表したものであり，授業の中で「『枕草子』の表現上の工夫は，この三つのポイントに分けられる」と指導することを共通の指導事項としていた。この三つのポイントは，「限定された正解」となり，また「客観的な採点基準」となって，採点に要する時間の短縮につながった。

なお，工夫と効果の組み合わせは一つとは限らないこともある（【資料】参照）。例えば，「体言止めの多用」の効果には，ウの「簡潔で余情をもたらす」以外に，ア「端的で分かりやすくなる」，キ「リズミカルになる」もある。工夫から得られる効果として適切であれば，二つのポイントが同じ記号でも可とした。

結果的には『枕草子』の表現上の工夫を答えさせているように感じられるが，「随筆を書く」という確かな目的をもって作品を読み，実際に創作もしている。また，あくまでも「Ａさん」の表現上の工夫を答えるので，『枕草子』の特徴として挙げられる連体止め（連体形止め）は不正解とした。枕草子の工夫を知っているだけでなく，生かすことがどういうことか＝具体的なイメージをもって活用できるかとい

う点で，「書くこと」における思考力等を評価していると言えるのではないか。

【資料】実際の生徒の解答（正答）

・無駄な言葉がなく，簡潔な表現で書かれている。（ア）……簡潔さ
・体言止めを多用している。（ウ）……簡潔さ
・短い文を重ねている。（キ）……簡潔さ
・テーマに対して多面的に例を挙げている。（イ）……的確さ
・誰にでも起こりえることを書いている。（イ）……的確さ
・言い切っていて断定している。（オ）……断定的

４生徒の取組状況と採点の実態

(1) 生徒の取組状況

取組状況は良好だった。完全に空欄である答案はほぼなく，自分の言葉で解答しようという前向きな姿勢が見られた。また，「断定的」にまで言及できたのは各クラス２名ほどで，多くの解答がＢ評価だった。Ｂ，Ａ評価に達しない原因は「説明不足」，つまり表現の問題である解答が多かったが，解答の内容そのものは，おおむねこちらが求めるものであり，単元を通して身に付けさせたいと考えた力は，ある程度，身に付いていたと思われる。

(2) 採点の実態

自由記述の問題としては，採点基準は明確であり，基準の理解は容易であった。反面，妥当な内容が３点以上あるか，「簡潔さ」「的確さ」「断定的」のうちどの点について述べているのか，「効果」の記号と合致しているか，それが幾つあるか，というように，ＡＢＣの判定をするまでのプロセスが複雑であると感じた。また，解答のバリエーションはやはり多くなり，どの程度まで許容するか，表現の差異による採点をどうするかという認識のすり合わせには，ある程度の時間を要した。

５　研究の成果と課題

(1) 成果

パフォーマンス課題との差別化をする考え方を得られたことが一番の成果である。パフォーマンス課題では見取りづらい「どう考えたか」という側面を測ることができた。随筆執筆の言語活動を評価する中で，作品の完成度を評価するとともに，完成作品から執筆の過程を見取ったり，生徒一人一人の活動の様子を観察したりする労力を考えると，評価の場面を分散することができたと考える。また，考査は，その特性上，曖昧さや感覚的な（主観的な）評価でなく，絶対的な評価が求められることから，作品の仕上がり具合や生徒のセンスに左右されることのない評価ができ，その点では評価疲れの解消につながるのではないかと思われる。

また，無解答がごく少数であったことから，取り組み易さも適切だったと考える。「効果とともに工夫を答えよ」という記述問題ではなく，設問を分け，問二を選択式にしたことで，生徒の心理的なハードルは低くなっただろうし，選択肢から問一のヒントを得た生徒もいただろう。

採点基準に関しては，客観的（絶対的）な表現を用いて基準をつくることにより，採点の曖昧さや採点者ごとの裁量の差が生じないようにできた。

(2) 課題

採点基準が客観的で明快でも，実際の採点作業におけるプロセスがシンプルでなければ，結局採点は煩雑になる。本研究の場合，問二においては，「工夫についての記述の数と内容で〇点，更に効果が合っていたらそれぞれ△点」のように配点を分けるだけでも，採点者の思考は単純になったかもしれない。あるいは，シンプルになるような出題の仕方にするのもよいだろう。例えば，「リズミカルな印象を受けるのはどのような工夫がされているからか述べよ」のような問いが考えられる。生徒の状態に応じ，取り組みやすさや求めたいレベルと併せて工夫できるとよい。

また，解答のバリエーションには内容だけでなく表現の違いもあるため，初めに合議制で採点をすることは，認識のすり合わせにかかる時間を短縮する手だてとなる。

問い　次の文章は、Aさんが「枕草子」「はしたなきもの」について執筆した随筆である。これを読んで、あとの問いに答えよ。

【Aさんの随筆】

【（　　）もの。寝坊。落とし穴。抜き打ちテスト。サプライズパーティ。偶然の再会。突然の別れ。時間の経過の速さ。

友達が、前触れもなく自慢の長い髪をバッサリ切ってきたこと。最終回ではじめて登場した人が犯人だったときは（　　）。一話目から出ていた全く無名の俳優が犯人だったときも。単なるクラスメイトだと思っていた子に好きだよと言われたとき。でも、もっと（　　）のは、そう言われて嬉しいと思った私の心。

問一　Aさんの随筆を読んで、（　　）に入ると思われる適切な言葉を考えて答えよ。

問二　Aさんは随筆を書く中で、どのような表現上の工夫をしていると言えるか。箇条書きで、三点以上答えよ。また、その工夫から得られる効果を、アークから選んで、記号で答えよ。（同じ記号を複数回使用してもよい。）

【選択肢】

ア　端的で分かりやすくなる。
イ　読者の共感を得られる。
ウ　簡潔で余情をもたらす。
エ　重厚感が出る。
オ　説得力が増す。
カ　読者の価値観にゆだねる。
キ　リズミカルで読みやすくなる。
ク　スピーディで迫力が出る。